

特講「ローカルジャーナリズム論」  
履修要項  
～地域の社会課題をメディアから考える3日間～

■授業概要

ソーシャルメディアの登場により誰もが情報を発信できるようになり、東京を経由せずとも、地域から東京に、地域から地域へと伝わるようになりました。このようなメディア環境により、地域に根ざし、地域の課題解決を実践する、ローカルジャーナリズムはこれまでにない広がりや展開を見せているようになってきました。本学部が掲げる社会課題解決の実践例として、地方新聞やローカルテレビ局などのローカルメディアによる調査報道やデジタル展開を、オータムセッションの3日間を利用して学びます。担当者同士の討論だけでなく学生とのワークショップを実施し、地域社会の課題解決について自ら考える力を身につけることができるだけでなく、ローカルメディアがどのような取り組みを行っているかも直接担当者に聞くことができます。

■担当教員・講師

寄付講座参加メディア：株式会社沖縄タイムス社、株式会社中国新聞社、株式会社西日本新聞社、株式会社博報堂ケトル、東海テレビ放送株式会社

担当：土橋 臣吾（社会学部准教授）

■対象学年（履修可能な学年）

2～4年生

■開講期・授業期間・場所

<開講期>

オータムセッション（夏季集中特別授業期間）

※通常の春学期科目や秋学期科目とは異なり、夏季休業期間中に集中特別授業として実施します。

<授業期間>

2020年9月15日、9月16日、9月17日の3日間

<場所>

オンライン形式

※詳細は学習支援システム上で担当教員からの情報をご確認ください。

## ■授業計画

9月15日

第1回 ガイダンス：ローカルメディアの課題と可能性

第2回 課題と向き合う（1）：過疎と向き合う

第3回 課題と向き合う（2）：フェイクニュースと向き合う

第4回 課題と向き合う（3）：大規模災害と向き合う

第5回 ワークショップ：ローカルジャーナリズムと地域課題について考える

9月16日

第6回 地域とつながる（1）：人々とつながる

第7回 地域とつながる（2）：まちづくりでつながる

第8回 地域とつながる（3）：知識でつながる

第9回 ワークショップ：ローカルジャーナリズムと地域のつながりについて考える

9月17日

第10回 地域を伝える（1）：ローカルジャーナリズムの新たなデザイン

第11回 地域を伝える（2）：ローカルジャーナリズムの課題

第12回 地域を伝える（3）：ローカルジャーナリズムの可能性

第13回 ワークショップ：ローカルジャーナリズムの未来について考える

第14回 まとめ：振り返り

※オンライン授業への変更に伴い、各日の内容に変更がある場合には学習支援システムでお知らせします。

## ■履修・成績について

<単位数>

2単位

<履修上限>

半期および年間の履修上限単位数に含まれません。

<単位の配当先>

2017年度以前入学者 「メディア社会コース（MSC）」

2018年度以降入学者 メディア社会学科生：「学科共通展開科目」

社会政策科学科生・社会学科生：他学科専門科目（自由選択科目）

<単位認定時期>


2020年度秋学期末に成績が付与されます。

<履修登録方法>

他の科目と同様に、Web（法政大学情報システム）上で履修申請をしてください。

科目は、履修申請画面下部の「集中・その他」の欄から選択することができます（下図参照）。

■集中・その他  
Intensive / Other

項番 / No.	機能 / Function	期 / Term	科目名称 / Class Title	担当教員 / Instructor
	+			
1	- 	オータムセッションA Autumn Session A	ローカルジャー	土橋 臣吾

科目名は略称で表示されます